

もる

「もる」について柔らかく考察してみることにした。検索ではなく、辞書（広辞苑）を
と引いてみると【mo1】【守る】【盛る】【漏る】があり、自分なりに解釈してみた。

【漏る】1) 先ず取り上げたいのは「この茶碗漏りまんねん」ピンと来る方には称赞（何も出ませんが）を。斬の分かる方。落語「はてなの茶碗」の一節であり核心部分。桂米朝さんの名調子が思い浮かぶ。何よりこの「この茶碗漏りまんねん」のフレーズが魂に焼き付いている。現世ではもう生では聞けないから、来世は必ず同じ処へと望む。

2) 情報が漏（れ）る。守秘義務を負う情報（国家安全・個人情報・営業秘密等）が漏れることは論外であり、漏らす側が注視されるが、漏らされて害を被る側にとって場合によっては被害の事実自体も秘密となり得る可能性があり、結局泣き寝入りとなってしまう。

逆に本来明らかにすべき情報が隠蔽され、それが公になったことを「漏れる」と表現すべきではないが、隠蔽した側からすれば「漏れた・漏らした」と表現してしまうことは自然なのかも知れない。隠蔽したことに言及しなければ、表現の自由か。

【盛る】1) 話を盛る場合。自分自身でも話を盛り上げようとのサービス精神から、盛った内容が他に悪影響がないと想定する範囲内において、若干「盛る」ことは稀にある。

恒常的に話を盛る方。話半分ならまだしも、半値八掛二割引＝3割2分程度と用心しなければならぬし、人の不幸な話となると尚更盛る。気の毒であればあるほど、その盛り具合が増し、当事者以外は喰い付く。また、「他人の不幸は蜜の味」とも言われている。

2) お手盛り。辞書やWebサイトより、自分に都合良く、自分の利益になるように自分で取り計らうこと。が共通の解釈となるが、これは行政用語であり、行政に携わる人々のその事業評価の最大化と責任の全面回避（極少化）を目指した結果を表現したものと解釈することが的確となる。平たく言えば、責任取らずにオイシイとこだけ頂くこと。

3) 土を盛ってない場合。これを書いているのは公開前の10月初旬。結果どうなっているのかは全く不明（予想もできない）だが、あるべき姿が「盛る」ことである事例。

【守る】1) 「まもる」と読むのが普通であろうが、「子守」の場合は「もる（り）」となる。子は守らなければならないが、いい大人は、自分で自分を守るしかないのであろう。

2) いい大人であって、組織的に守られている方。何が守られる（守ろうとしている）のかは自分を取り巻く組織であり、その組織における自分の立場であろう。これが民間企業なら頷けるが、公的機関の所属であれば「全体の奉仕者」の精神を意識されたい。

【mo1】物質量に関する基本単位。1mo1（モル）は、 6.02×10^{23} 個の集団のことを表す。炭素12.01gが1mo1。「オチ」や「下げ」はありません。